

JORNADA DE SOLIDARIDAD

連帯の集い “私たちは皆ベネズエラ”



Sr. Embajador Carlos Miguel Pereira

ベネズエラ、ニカラグア、ボリビア、エクアドル各国大使殿

日本の様々な分野と組織からお集まりいただいた友人の皆様

まず最初に、ホセ・マルティが定義した「我らがアメリカ」が歴史を通じて、日本の国民の皆様から受けて来たご支援にたいし、私達の深い感謝の気持ちを重ねてお伝えしたいと思います。そのご支援は、私達を結びつけ、双方を隔てる地理的な距離を縮めてくれる友好の絆の証です。

今回は極めて正当でかつ緊急な問題のために集まっていただきました。それはベネズエラ、ボリバル革命との連帯です。

残念ながら、マスコミの編集方針は大企業と支配層によって決められるため、概して我々の諸国の政治的社会的現実を操作したり隠したりするものとなっています。ですから、今日のこの機会のように、直接交流を持ち、皆様やその組織にとって関心の対象となりうる情報をお伝えできるのは大変重要な意義を持ちます。

進歩的政府の社会プログラムや富の再分配の方策によって特権が脅かされたラテンアメリカの右翼勢力、寡頭支配層、富裕層が、近年攻勢に転じました。アメリカ政府に激励され支援されたこの少数勢力は、正規に樹立された政府を倒し、我々の国々を不安定化させる内部危機を作り出そうとしています。

それらの攻撃の主要な実験場となったベネズエラは、ニコラス・マドゥロ大統領の指導の下、決然と抵抗してきました。キューバは、国際共同体の重要な一部として、アメリカ政府によって同国に課せられた一方的な制裁を、受け入れられないものとして糾弾してきました。またクーデター勢力の暴力やメディアの操作、ベネズエラがアメリカの国家安全保障にとって特別な脅威であるとの横暴な言明を糾弾してきました。

兄弟国ニカラグアもまた、攻撃の的となっています。アメリカ議会で2年続けて採択されたNica Actとして知られる対ニカラグア制裁法案は、同国に経済・金融制裁を押し付けることを目的とした干渉主義的行為であり、地方議会選挙を前に不確実な雰囲気を作り上げることをねらったものです。しかし、サンディニスタ戦線は今一度、国民の支持を得て勝利を勝ち取ることでしょう。

我が国の場合、皆さんもご存知の通り、去る6月16日、トランプ大統領がキューバに対する経済・貿易・金融封鎖を強化する決定を発表しました。封鎖は50年以上にもわたって我が国の国民に害を与え、国の発展にとって最も大きい障害となっているジェノサイド政策です。来る11月1日、国連でキューバは今一度封鎖の終了を要求する決議案を上程しますが、日本を含めた国際社会が我々の要求を支援してくれることを確信しています。

また、ここ何日か世界で取り沙汰されているのは、ハバナの米国外交官とその家族に音響攻撃が行われたかのようなニュースです。それを口実に、アメリカは一方的に不当にも駐キューバ米大使館の人員を60%引き揚げることを決め、駐ワシントンのキューバ大使館からも同じ割合の外交官の国外退去を要求しました。キューバ政府は、申し立てられた問題には何らの責任もないこと、さらに、調査を完了するためにアメリカ当局と効果的な協力を行う用意があることを重ねて主張しています。現在までのところ、調査から何らの証拠もあがっていません。この問題につきましては、皆さんに準備したファイルの中に、日本語版とスペイン語版のキューバ外務省声明がありますので、ごらんください。

友人の皆さん、

ご出席に改めて感謝いたします。今後とも引き続き、我々の地域の出来事について真実を知り、またそれを知らせる活動と一緒に取り組んで行きたいと思えます。それでは、ここでイシカワ・セイコー、ベネズエラ大使のご挨拶に場を譲りたいと思えます。

Sr. Embajador Seiko Ishikawa

去る9月16日から19日までカラカス市に60を超える国々の要人や知識人が集って「私たちは皆ベネズエラ: 平和、主権及びボリバル的民主主義実現のための対話」会議が開催されました。議論を経て参加者たちは米国帝国主義の攻撃に直面するベネズエラの国民と政府を応援する旨表明したカラカス宣言に調印しました。宣言のコピーを皆さんにお配りしています。

本日のこの会に日本の友人の皆さまをお招きしたのはカラカスでの会議の成果とニコラス・マドゥーロ大統領が会議を開催した背景をご説明したかったからです。

ベネズエラの状況をお話しすると、抑制し難い組織的暴力と通信、政治、経済などの分野に一斉にしかけられている異例の国際的包囲に数か月前からさらされています。今年ベネズエラ野党が無責任に招集・奨励した抗議活動(複数)中に100名を越す死者が出ました。国民の相当数を苦しめた暴力と経済戦争の激化は統治に難があり、人道的支援なканずく介入の余地がある状況の世界に見せつけるのが目的です。

1999年以來ベネズエラが幾度となく受けているいやがらせはウーゴ・チャベスの没後2013年から激化していますが、最近ひどくなったのは2015年に野党が議会選挙で勝利してからです。

過去20年間ベネズエラは様々な形で攻め立てられています。クーデター、石油のサボタージュ、組織的暴力(グアリンバ)とそれに伴う殺人、政治裁判の企て、組織的に生じさせた品不足や買い占め。更には介入主義的な制裁や脅迫を伴うOEAやメルコスールなどの国際機関や米国の主要指導者たちによる声明が絶え間なく発表されています。

去る1月にレックス・ティラーソン米国国務長官はシンクタンク Latin America Goes Globalのインタビューに答えてベネズエラの政権交代を支持し、マドゥーロ大統領のチャベス主義政権を交代させるべく地域の右派政権や機関とともに努力する、と断言しました。

また、本年4月、クルト・ティッド (Kurt Tidd) 南部方面司令官は米国上院軍事委員会においてベネズエラの深化しつつある「人道的危機」は「最終的に地域レベルでの答を要求することになり得る」と断言しました。

このように米国にとって都合の良い規模や戦略(合同または個別で)が露呈しています。更に国際ジャーナリズムも加担しています。というのも英語の一大メディアもスペインを拠点にする大メディアもベネズエラについて(悪い方に)偏ったこと伝えているからです。スピーチの表現(「人道的危機」、「警察国家」「麻薬独裁主義」)が世界の世論に殆ど押し付けられています。無法で失敗した、どんどん追い詰められていく国家として一国を描写しています。それは全てベネズエラがいま「人道的危機」に瀕している、とすることに賛同を得て様々な形で干渉するのを正当化するためです。

多くの人の頭に浮かぶ疑問(複数)は同じです。何故ベネズエラを攻撃するのか？ベネズエラは米国にとって異例の特別な脅威である、とするオバマ大統領の条例が言うようにベネズエラは他国にとって脅威なのだろうか？ベネズエラごとき国が米国のような超大国を脅かす、などというばかばかしい話は本当なのだろうか？

ベネズエラには大量破壊兵器はありません。他国の領土に軍事基地を持ってはいません。他国を爆撃したことも侵略したことも一度もありません。国の歴史を振り返ると我が国の軍人が海外に出動したのは19世紀に解放者シモン・ボリバル率いる部隊が独立を目指してコロンビア、ペルー、エクアドル及びボリビアの国民とともにスペインの植民地帝国相手に戦った時だけです。

ベネズエラは平和主義国であり、憲法が定める目標の中に国家間に平和の協力と核兵器軍縮が明記してあります。ベネズエラは核兵器や水素爆弾の存在が意味する危険に対抗する唯一の保証として核軍縮を擁護しています。だからこそ本年核兵器禁止協定が成立したことをベネズエラ国民は喜んでいきます。そして、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が本年のノーベル平和賞を受賞したことは相応しいことであり喜ばしく、また、この歴史的な成果に一役かった被爆者の方々、ピースボートを始めとする日本の団体の皆さんも称えたいと思います。

ベネズエラは米国にとって実際に何を意味するのでしょうか？最も重要な戦略的要素が二つあります。世界最大の石油埋蔵量とベネズエラの地政学的位置です。だからこそ社会主義と評されている愛国的政府をベネズエラが擁していることを米国は不安に思っているのです。

ウーゴ・チャベス元大統領とニコラス・マドゥーロ現大統領は我が国の主要天然資源（石油）の所有権行使に基づく政策を維持してきており、OPECの団結方針を促進してきました。チャベスもマドゥーロも所得分配政策を適用しました。ベネズエラや海外の特権部門を潤すのではなくベネズエラ国民の生活を徹底的に改善するためです。

国民生活の物理的条件の改善と政府の特徴である主権ある政策によってベネズエラは強国になりました。国の富よりむしろ毅然としたボリバル主義に基づいた強さです。

ラ米・カリブ地域で見るとウーゴ・チャベス司令官はシモン・ボリバルの時代から睡眠状態にあったアメリカ大陸統合の種に文字通り水やりをしたのです。ALBA(米州ボリバル同盟)、ペトロカリブ、UNASUR(南米諸国連合)、CELAC(ラテンアメリカ・カリブ諸国協同体)が誕生しました。私たちの米州諸国は存在しているだけでよしとする個別の単なる国家ではなく自国のための国家、言い換えれば団結が、大地が、そして民衆の創造力が途方もない富を生み出す大きな潜在能力を持っていることを自覚する国家になってきているのです。

内外の構成要素を用いた帝国主義の攻撃が激化するなかニコラス・マドゥーロ大統領は2017年5月1日に国内の平和と対話実現のために憲政議会を招集しました。

憲政議会招集を以てベネズエラ野党がひきおこした紛争と暴力のさなかに上位の対話を提議しました。憲政議会は日常的な酷評につきものの障害を克服し、我が国の経済・政治・社会モデルを構造的に正すために必要な場裏です。

憲政議會を設置してからベネズエラは和平に向けた道を再び歩み始めました。憲政議會は民衆から発した権力を発揮し、ベネズエラ社会の重要な仲裁人としての役割を果たそうとしています。我が国は既存の権力や機関の権限や相互依存性を尊重しながら順調に歩んでいます。選挙も全国選挙審議会が設定した日程通りに実施されます。来る10月15日には知事選挙が、2018年には大統領選挙が行われます。しかし最も重要なのは我が国がやっと平和への道に戻ったことです。

いま皆さんに披露したニュースは非常に重要であるが故に海外のメディアが沈黙したり大きく扱わなかったりしたことは大いに注目する点です。

ベネズエラ政府は米国政府の対外経済政策を支持しない諸国との二国間・多国間関係を深化させてきました。ベネズエラは国際的に孤立している、と断言するのを耳にする度に我が国は新世界地図にしっかり入っていることを考慮するべきです。このことを一番よく実証するのはニコラス・マドゥーロ大統領が最近行った外遊です。ロシア、アルジェリア、ベラルーシ、トルコとの同盟を強化しました。更に中国とインドとの新計画を公表し、米国の封鎖に立ち向かっています。

同様にジュネーブに本部がある国連人権委員会の第36会期で国連加盟63カ国がベネズエラボリバル共和国を支持する共同声明に署名したことも重要な出来事でした。共同声明には我が国の主権を無制限に支持し、外国の干渉を断固拒否する旨記されています。「国際法の全枠組みに従ってベネズエラボリバル共和国の主権を尊重することが絶対必要である」と規定し、米国政府が、ニコラス・マドゥーロ大統領を含むベネズエラ国民に対して行使している一方的かつ恣意的かつ不法な制裁を非難しています。

友人の皆さん

トランプ大統領が主導し、一連の右派政府が支持する帝国主義が包囲するなかベネズエラのための連帯会議が開催されました。より良い別の世界が可能であることを実証するべくボリバル革命とニカラグアやキューバなど地域の人道的政府(複数)を擁護し、平和と主権と民主主義にコミットするよう呼びかけました。

本日ご参集下さった皆さん、関心を持ち、連帯して下さり、ベネズエラやラテンアメリカをありのままに正しく理解する日本人を増やす役を担って下さり、ありがとうございます。お配りした資料に目を通し、出来る限り他の方々に伝え、実践して下さるようお願いいたします。

永遠の司令官ウーゴ・チャベスは言いました。「帝国主義が存在する限りボリバル革命は危険と脅威にさらされるだろう。なぜならば私たちは彼らに替わるモデルを構築しているからであり、成功すれば資本主義は一掃されるからだ。」

チェ・ゲバラ司令官が卑劣にも殺害されてから50年たちます。ベネズエラ人アリ・プリメラがチェ・ゲバラに捧げた歌の歌詞の一節で私の話を締めくくります。「あなたの両手は死してもなお闘っている」。

ご清聴ありがとうございました。

Sr. Embajador Saúl Arana

友人の皆様

外国の干渉主義に脅かされている兄弟国に対し、国際的な連帯を改めて考えるために本日、私たちは集いました。私はここに三つの考え、三つのキーワードを強調します。それは連帯、約束、行動です。

国家間の平和的共存を妨げる悪しき諸政策によって、私たちは困難な時期に直面しています。その困難の度合いは、私たちが自然とうまく共存できないことから派生した被害と同程度のものです。

ハリケーン・イルマがキューバを通過したその日に、犯罪的な対キューバ封鎖が再開されるとはなんという一致でしょうか！ニカラグアにも同様のことが起こりました。先週水曜日、ハリケーンが国土を通過中、米下院で恥ずべき対ニカラグア制裁法案が可決されました。

このように重なり合った様々な状況は、私たちに熟考を促しています。政治が私たちの社会を停滞させないよう、私たちが地球を停滞させないよう、必ずや政治が変わらなくてはなりません。

気候変動対策の約束を反故にした、その同じ大統領が「ベネズエラに対する軍事オプションがある」と述べる権利を不当に行使することは容認できません。これは国家間の共存方法とは言えません。内政不干涉の原則を定めた国連憲章に反し、国連への侮辱行為ですらあります。

本日私たちが集い、再確認する連帯は義務ではありません。連帯は責任をもって約束する願いです。

今夜私たちは共通の旗、つまり連帯の旗を掲げるために集結した60の国民、60ヶ国の住民の意思を再確認しています。反ヴェネズエラのメディア戦争が展開され、残念ながらラテンアメリカの一部を含む複数の国々で成果を上げました。私たちはこの戦いの最前線に立ち、決然かつ効果的に対決しましょう。

ベネズエラを攻撃する理由は、独自性を奪う国際関係モデルに抵抗したからです。それは従属・服従関係のモデルであり、強国の視点のみを取り入れた協力と引き換えになっています。

フィデル・カストロ前議長とウゴ・チャベス前大統領はALBA（米州ボリバル同盟）を創設、米国主導のALCA（米州自由貿易地域）プロジェクトに対抗しました。ALCAは参加諸国からすべてを（水までも！）奪って弱体化させようとするものでした。

ニカラグア人はこのような虚言キャンペーンを経験してきました。例を挙げれば80年代、キッシンジャーが反革命への支援を正当化するため、ユダヤ人を迫害したとしてニカラグアを非難しました。当時、米国からの連帯は重要な役割を果たしていました。ニカラグアは攻撃を受けた自国民に対する、米国民からの並外れた連帯を築き上げることができたのです。今日、この人類の美しい歴史が繰り返されています。同胞が優位に立つ強国から不当に攻撃されたとき、諸国民の間に湧き上がる連帯の歴史です。

皆様は今日、新しい連帯精神の種子です。この種子を倍増させなければなりません。諸国民には自己防衛しか残されていません。私たちの連帯は別物であり、屈辱的ではありません。世界一裕福な軍事大国の大統領がわずか数日前、ハリケーン・マリアに襲われたプエルトリコの住民に対して見せた姿勢とは違います。

ニカラグアは今日改めて、ベネズエラならびにキューバの政府・国民に対する無条件の連帯を表明します。確固とした不滅の連帯であり、打ち崩されることなく幾多の嵐を耐え抜く連帯です。世界は「対キューバ経済封鎖はもうたくさんだ」と発言し、私たちはこのスローガンを鮮烈に守り抜きます。

我が国に目を向けますと、諸問題を抱えてはいますがニカラグア・ニカラグイータは対ニカラグア制裁法に立ち向かいます。私達が取る行動故に、一部の亡命キューバ人によって私たちは罰せられているのです。彼らは同国人の現実を知りもせず、今や自由の擁護者を気取っています。国内問題の解決のために外国の干渉を招いてしまったニカラグアの歴史が、悲しくもここに繰り返されています。しかし歴史に刻まれているように、人民は外国の介入に抵抗し、最後には打ち負かしたということをこの機会に想起するとよいでしょう。

本日生まれるこの運動の力が活発化し、他の国々に広がりますように！ 共に大国の傲慢に立ち向かうという約束が我々に力を与え、大国が抱える容認不能な野望を粉々に砕け散らすような意志の壁を築くよう、励ましてくれますように！ 連帯が私たちに着想を与え、結束を高めてくれますように！

ご清聴ありがとうございました。